

県産飼料自給率向上対策事業モデル実証業務委託仕様書

1 業務名

県産飼料自給率向上対策事業モデル実証業務

2 目的

県産飼料の利用拡大による畜産経営の安定化を目的に、モデル事業により県産飼料への転換による効果と課題の検証を行い、県産飼料自給率向上を図る。

3 業務実施期間

静岡県が指定した日から令和7年3月12日（水）

4 業務内容

以下の業務を実施すること。

(1) 業務概要

区 分	概 要
名 称	県産飼料自給率向上対策事業モデル実証（タイプ1～3）
内 容	県産飼料の生産・利用、取組データの収集・提供、および事業報告（取組内容によりタイプ1からタイプ3に分類。各タイプの取組内容は別表に記載のとおり）。
対 象 実施者	タイプ1 耕種農家および肉牛農家を含む2者以上で構成する組織 タイプ2 肉牛農家 タイプ3 飼料生産を営む者（経営の一部で営むものを含む）

<モデルのタイプ>

タイプ		取組内容
1	稲わら収集	耕種農家主体タイプ (受託：団体)
2		肉牛農家主体タイプ
3	牧草等生産	牧草等生産タイプ

- ・機械・設備導入等して稲わらを収集し、肉牛農家に供給
- ・団体内で取組を共有
- ・肉牛農家が機械導入等し水田から稲わらを収集し利用
- ・飼料生産者が機械導入等し飼料生産し、酪農家へ供給

(2) 業務の詳細

区 分	内 容
県産飼料の 生産、利用	○県産飼料の生産（稲わら収集含む）および利用の実施とデータ収集 ・県産飼料生産利用に取り組むこと（※1 対象業務詳細は別表に記載） ・取組に際しては、取組者毎等に生産量や費用等のデータを別紙様式により収集し整理すること（※2 収集データの詳細は別表に記載）
データの 提供	・上記において収集したデータの他、県産飼料の生産利用の効果が把握できるよう、実証前後における生産利用状況および経営収支データ（取組年およびその過去1箇年分の決算書類など）を整理し提供すること
事業報告	・実施状況を随時把握し、事業終了時とその他県が求めた際に報告すること ・事業効果および課題について検証し、報告すること

※1 生産・利用の対象業務

タイプ	対象業務
タイプ1	耕種 稲わらの収集から肉牛農家への供給までにかかる業務（稲わらの反転・乾燥・集草・ロール作成・搬出・保管・運搬等）
	肉牛 稲わらの譲受から牛への給与までにかかる業務（稲わらの運搬・保管・乾燥・細断・給与等）
タイプ2	稲わらの収集から牛への給与までにかかる業務（稲わらの反転・乾燥・集草・ロール作成・搬出・保管・運搬・細断・給与等）
タイプ3	牧草等の生産から牛への給与までにかかる業務（施肥・耕起・整地・播種・薬剤散布・覆土・栽培・刈取り・転草・集草・ロール作成・密閉（ラッピング）・運搬・保管・細断・給与等）

※2 収集データの詳細

ア タイプ1のうち、稲わら収集供給側の収集データ

項目	内容
収集販売概況	取組面積・地域・作付け体系、収集方法、収集量、販売量、販売件数、運搬方法、保管方法等
利用機械設備	利用した機械設備の種類・規模・仕様能力・耐用年数等
投下労働	作業内容ごとにおける人数、時間等 ※毎日、日報等に記録すること
費用	機械・設備導入費、資材費、光熱動力費、人件費、賃借料、修繕費、流通経費等 ※当該業務にかかる費用がわかるよう収集整理すること
収益	稲わら販売額等 ※当該業務にかかる収益がわかるよう収集整理をとること
その他	取組における課題等

イ タイプ1のうち、稲わら利用側（肉牛農家）の収集データ

項目	内容
利用実績	利用方法・量、保管方法等
利用機械設備	利用した機械設備の種類・規模・仕様能力・耐用年数等
投下労働	稲わら利用にかかる人数、時間等 ※毎日、日報等に記録すること
費用	機械・設備導入費、資材費（稲わら購入費含む）、光熱動力費、人件費、賃借料、修繕費、流通経費等 ※当該業務にかかる費用がわかるよう収集整理すること
その他	取組における課題、肉牛の稲わら嗜好性 等

ウ タイプ2

項目	内容
収集・利用実績	取組面積・地域・作付け体系、収集方法、収集量、運搬方法、保管方法、利用方法・量 等
利用機械設備	利用した機械設備の種類・規模・仕様能力・耐用年数等
投下労働	稲わら収集・利用にかかる人数、時間等（作業毎） ※毎日、日報等に記録すること
費用	機械・設備導入費、資材費、光熱動力費、人件費、賃借料、修繕費、流通経費等 ※当該業務にかかる費用がわかるよう収集整理すること
その他	取組における課題、肉牛の稲わら嗜好性 等

エ タイプ3

項目	内容
生産（または利用） 実績	取組面積・地域・作付け体系、収集方法、収集量、販売量、販売件数、運搬方法、保管方法、利用方法・量 等
利用機械設備	利用した機械設備の種類・規模・仕様能力・耐用年数等
投下労働	飼料生産・利用にかかる人数、時間等（作業毎） ※毎日、日報等に記録すること
費用	機械・設備導入費、資材費、光熱動力費、人件費、賃借料、修繕費、流通経費等 ※当該業務にかかる費用がわかるよう収集整理とること
収益	売上
その他	取組における課題頭

※飼料生産者、および利用する酪農家のそれぞれでデータ収集すること

(3) その他の事項

このほか事業を遂行する上で実施が適切と考えられる業務は、任意で提案すること。

(別紙)

項目	細項目	必須	実績	備考
飼料生産・収集・販売実績 ※タイプ1 (肉牛農家) 以外が記入	取組地域			
	取組面積	○	ha	
	作付け体系			
	稲わら収集方法	○		
	生産(収集)方法	○		
	販売量	○	t/年	
	販売件数	○		
	運搬方法	○		
	保管方法			
県産飼料利用実績	利用方法			
	利用量	○		
	保管方法	○		
利用機械設備	機械設備名	○		機械設備毎に記載
	仕様能力			
	耐用年数			
投下労働				作業内容毎に記載
経費	機械設備導入費	○		
	資材消耗品費	○		
	光熱動力費	○		
	人件費	○		
	賃借料	○		
	流通経費	○		
	その他	○		

(別紙 (記載例))

項目	細項目	必須	記載例	備考
飼料生産・収集・販売実績	取組地域		〇〇市〇〇町	タイプ1 (肉牛農家) 以外が記入
	取組面積	○	〇〇ha	主たる地域について記載
	作付け体系		主食用米、麦	主たる取組圃場について記載
	稲わら収集方法	○	コンバインで15cmほどに細断したわらをロール化	
	収集 (生産) 量	○	〇〇 t	
	販売量	○	〇〇 t	
	販売件数	○	〇〇戸	
	運搬方法	○	圃場～保管場所： 自身所有のトラック 保管場所～畜産農場： 畜産農家が運搬	
	保管方法	○	収集後は専用の倉庫で保管し、注文の度に運搬	
	県産飼料利用実績	利用方法 利用量 保管方法	○	肥育後期の牛に〇kg/日 (粗飼料の〇%) を給与 〇〇 t 共同保管庫に保管。必要時に肉牛農家を取りに行く。
利用機械設備	利用した機械・設備の仕様能力等	○ ○ ○ ○ ○	(機械設備：ロールベアラー) 仕様能力： 1m径、牽引式 耐用年数： 7年 (機械設備：テント倉庫) 規模： 10m×20m×高さ4m 耐用年数： 10年	機械設備毎に仕様能力等を記載
投下労働			(作業内容：〇〇〇) 延べ作業時間 〇〇時間 (〇〇日) 作業人数 3人	※作業内容毎に時間等を記載
経費	機械設備導入費 資材消耗品費 光熱動力費 人件費 賃借料 流通経費 その他 ()	○ ○ ○ ○ ○ ○	(機械設備：ロールベアラー) 2,000,000円 〇〇〇円 〇〇〇円 〇〇〇円 〇〇〇円 〇〇〇円 〇〇〇円	
飼料販売額等	飼料販売額 or生産受託費	○	稲わら販売額 〇〇〇円	
その他	取組における課題		(自由記入)	

実績は、委託期間全体における数値等をご記入ください。